

25. ^{81m}Kr ガスによる肺吸入スキャン(その 2)

——局所肺機能評価の試み

小林 英敏 佐々木常雄
改井 修 小原 健
松原 一仁 大野 晶子
真下 伸一

(名大・放)

^{81m}Kr ガス, LFOV シンチカメラおよびシンチパック 200 を用いて, 被験者を坐位とし, 前方および後方より各々 1 回呼吸法により肺シンチを行ない, これを単純写真と比較した。また, 肺野を四分割し, おのおのの区画の 0.5 秒間の RI カウントを読み出し, これより呼出期の RI カウントの減少率, すなわち, RI の「呼出率」を計測した。これは区画の容積減少率, すなわち, 局所の時限肺活量に相当し, これを左右で比較した。

正常例 1 例, 原発性肺癌 1 例および肺転移 2 例の 4 症例につき検討し, RI の「呼出率」は局所の肺の換気能, 閉塞状況の程度によく相関があることがわかった。

26. 頸部リンパ節シンチグラフィーの検討

○仙田 宏平 金子 昌生
真野 勇 高橋元一郎
(浜松医大・放)
白石 輝雄 椎名 睦郎
(聖隷浜松病院・耳)

リンパ節シンチグラフィーは, 手技が簡便で,

患者への侵襲がほとんどないなどの理由で, 容易に施行できる長所がある。しかも, 本検査法は, 皮下注射の部位を変えるだけで, 全身の主なリンパ節群の描画が可能となる大きな利点がある。しかし, 本検査法は, 解像力が低いなどの欠点のため, 従来普及されるに至っていない。そこで, 今回, 理学的所見との対応がしやすい頸部リンパ節について, 本検査法の基礎的な問題を検討したので, 若干の臨床的検討を加えて報告する。

対象は頭頸部癌などの患者 19 名で, これら患者に計 22 回の検査を行なった。放射性医薬品として, ^{198}Au コロイドと 3 種の ^{99m}Tc コロイド製剤を使用した。これらの内で ^{99m}Tc フチン酸が最も良い画像を示した。皮下注射部位は頭頂部 1 カ所またはこの両側 2 カ所とし, 後者でより安定した画像が得られた。皮下注射に際し, 局所麻酔を必要とするほどの疼痛はなかった。また, 注射後炎症など副作用は発現しなかった。検査開始時間は, ^{198}Au コロイドで 24 時間以後が適当であったのに対し, ^{99m}Tc フチン酸では 2~3 時間後と短かった。撮像方向として, ^{99m}Tc コロイド製剤使用例では, 両斜位が両側のリンパ節を分離し, かつそれぞれ明瞭に描画する上に有用であった。臨床, 理学的所見と比較的よく一致する種々の画像パターンを観察できたが, 中でも, 2 例の ^{99m}Tc フチン酸使用例で, 頭部のリンパ管影の出現が認められた。

このページの訂正

訂 正

16 卷 2 号掲載の地方会抄録表示に誤りがありましたので, 下記の如く訂正いたします。

第 3 回日本核医学会北日本地方会→

第 4 回日本核医学会北日本地方会